



防災士資格取得までの費用合計

61,000円 (税込み)

防災士研修講座受講料	53,000円
防災士資格取得試験受験料	3,000円
防災士資格認証登録料	5,000円

お申し込みから試験までの流れ

- 希望コースを選択**

ホームページのコース一覧からお選びいただくか、もしくはお電話にてお問い合わせのうえ、ご希望の研修コースを選んでください。
- 受講の申し込み**

インターネットまたは、FAX でお申し込みください。
- 受講料払い込み**

郵便局備え付けの「郵便振替払込取扱票」にて受講料をお払い込みください。
- 受講登録完了**

受講料のお払込みが確認されましたら正式申込受付・受講登録完了となります。
- 自宅学習**

防災士教本・教材一式をお送りします。
[自宅学習開始]教材の発送は、会場研修の3～4週間前です。おおよその目安として、1日1～2時間の学習で2週間程度の分量です。「履修確認レポート」は会場研修の受付で提出していただきます。
- 会場研修**

会場研修を受講していただきます。防災を初めて学ぶ方にもわかりやすい内容です。大事なポイントが印象深く残るように、現場の映像や研究データを交えて、防災界の第一線で活躍する講師陣が解説します。
研修は、座学形式と実践的な演習形式の講義で構成されています。なお、会場研修の最終日に防災士資格取得試験が実施されます。
- 防災士資格取得試験**

資格取得試験に合格した方が、日本防災士機構に登録を申請することにより、防災士台帳に登録され「防災士」としての活動が始まります。
- 合格後「防災士」申請登録**

登録申請に必要な書類は、「防災士認証登録申請書」「救急救命実技講習の修了証のコピー」「写真2枚」の3点です。

防災士誕生！

豊富な経験と防災界屈指の講師とスタッフで、明日を担う防災士を短期間に育成します。

防災士研修講座 ※モデルプログラム

受講生の90%以上が合格！

防災士研修センターは、防災士制度の発足以来300回以上の豊富な研修実績があります。その豊富な経験や、情報、アイデア、そして、受講生の要望や感想から得られた知見をふんだんに盛り込んだ「当センター独自の予復習教材」によって皆様の学習を支援いたします。また、防災界を代表する講師陣が指導にあたり、減災と社会の防災力向上に必要な不可欠な人材である防災士の育成をいたします。



ご用意下さい。

防災士の登録には、救急救命講習の受講が必要です。

(試験後に取得してもかまいません)

防災士資格取得試験

試験形態は三択式で、30問出題されます。試験時間は50分間。21問以上正解した方が合格となります。試験は教材に基づいて自宅学習を進めていただき、講義をしっかり聴いていただければ、ほとんどの方が合格されます。

全国に防災士は

54,000名

(2012年9月末現在)



1日目		9:00 受付		(モデルプログラム)	
		9:15 ↓ 9:30	オリエンテーション	防災士研修のしくみや試験・登録について説明します。	
1時限目	9:30 ↓ 10:30		防災士の役割	東日本大震災、阪神淡路大震災の教訓から、いま社会では、“自助”“共助”の考え方が市民防災の基本となっております。防災士に、期待される役割を学びます。	
2時限目	10:40 ↓ 11:40		地震のしくみと被害	4つの巨大プレートが交わり、海溝・内陸型地震など多くの地震の発生は避けられないのが日本の国土の特徴です。地震発生メカニズムと起こりうる巨大地震、その対策について学んでいきます。	
3時限目	11:50 ↓ 12:50		近年の自然災害に学ぶ	地震や津波だけでなく、日本では様々な自然災害が発生しています。近年はゲリラ豪雨や竜巻など以前とは災害の様相も変わってきています。地球環境の変化に伴う災害の変化を学びます。	
			昼休み (防災ビデオ上映)		
4時限目	13:50 ↓ 14:50		土砂災害と対策	土砂災害危険箇所は全国で52万箇所を超える日本の国土。土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害が起きやすい地盤や地質、誘因となる地震や豪雨との関連などを学びます。	
5・6時限目	15:00 ↓ 17:10		避難所の開設と運営 (講義と演習)	当センターが開発したグループワーク形式の実践型演習です。巨大災害により被災者になったら、避難所で知らない人たちと狭い空間で長い期間、生活することになります。避難所は被災者自身が、自力で開設し、運営する必要に迫られることもあります。過去の避難所生活体験者やボランティア体験者が講師・進行役となり、実際に起こった問題を用い、どう解決するか討議していただきます。	

2日目		9:00 受付		(モデルプログラム)	
1・2時限目	9:30 ↓ 11:40		ハザードマップと災害図上訓練 (講義と演習)	災害に備えるとき大事ななのは、「災害をイメージする」ことです。巨大地震発生時、どこでどのような被害が起こるか。どのような準備をすればよいのか。ここで得られた知見をもとに、家庭・職場・地域で実践してみるのはいかがでしょうか。	
3時限目	11:50 ↓ 12:50		風水害と対策	多くの自然災害が予測困難で、突然発生するのに対し、台風や大雨は、天気予報などを通じて情報を得ることで、事前に備えることができます。風水害への備えや避難方法などを学びます。	
			昼休み (防災ビデオ上映)		
4時限目	13:50 ↓ 14:50		災害と危機管理	危機の種類や危機管理活動の分類等の基本的なことはもちろん、実際に自らが巨大災害などで危機管理を体験した講師が、実体験をもとにした危機管理の本質をお伝えします。	
5時限目	15:00 ↓ 16:00		耐震診断と補強	耐震補強が大事だと分かっている方は多数。でも実際に補強をした人は数少ないのでは？聴講後、早速、耐震補強をしたという方も多数いらっしゃいます。なぜ耐震補強が大事なのかを学びます。	
6時限目	16:10 ↓ 17:10		身近でできる防災対策	タイトルの通り身近でできる防災対策。家具固定の方法や、備蓄のポイント、安否確認の方法、住まい選び等、防災対策はすでに始まっています。数ある中から、特に大切な内容をお伝えいたします。	
	17:30 ↓ 18:30		防災士資格取得試験		

講師は、防災界を代表する方々です。(50音順)



防災士の資格を取得した方にお話を伺いました。私たちは防災士です。

●放送関係の方からのご感想

学ぶだけではなく、実践を

(東京都 男性)

テレビの情報番組の司会をしています。東日本大震災ではしばらく報道特番を担当、その後も生放送中に緊急地震速報が出たり、揺れたりしていることもあり、もっと的確に、しかるべきタイミングで役立つ情報を放送したいと思い受講しました。過去の災害から学び語り継ぐこと、備えること、何より耐震化の重要性を訴える活動を実践していきたいと思います。

●警備業の方からのご感想

得た知識をしまい込まずに

(東京都 女性)

これまで防災といえば水と食料を常備する位しか思いつきませんでした。今回の研修を受講した事で、防災に対する認識を180度改めさせられました。今回の研修を通して身に付けた知識は、自分の中だけで完結させるのではなく、周囲の啓発等に活かしていきたいと思います。

●消防団・自主防災組織に所属される方からのご感想

知識の浸透を図る (神奈川県 男性)

知識の浸透を図る貴重な話・ビデオとテキスト、予復習教材を通じて大変に勉強になりました。幸いにも現在、自治会の防災部長です。今回の講習で得た知識は自治会員の全員に知らせるべき内容だと痛感しましたので、得た知識を自分だけにとどめておかず、自治会の自主防災会議などの席上で、時間をかけて自治会員に伝えていきたいです。

VOICE 私たちは防災士です。



●その他公務員の方からのご感想

仕事の重みを実感 (埼玉県 女性)

私は気象予報士です。仕事では、台風が来た時などに、よく「大雨による土砂災害に注意して下さい」などと使います。ですが、その言葉の本当の重みを知りませんでした。今回はそれについて十分に学べました。そして他の災害についても知識が深まり、自分や家族の身を守る意識が高まりました。

●認識が変化 (山梨県 男性)

何か人の為に役立ちたいという考えから、ホームページを見て「防災士」に関心を持ちました。そして、災害が発生した後の救護の為に知識を、研修を通して学んでいく事を期待して受講しましたが、今回の研修を通して、災害を減災させる為には、起こりうる災害を予測し、それに対してあらゆる対策および予知をイメージしていかなければならないという事を、再認識させられました。

●郵便局長の方からのご感想

まず知ることが大事 (福島県 男性)

防災士研修を受講して感じたのは、知っているのと知らないのとでは雲泥の差があるという事で、防災の知識がある、自分の住む地域の状況を知ることによって助かる可能性は高まっていく。それを少しでも広めていくことが防災士の第一の使命であると感じた。

●学校の先生の方々からのご感想

使命の大きさへの覚悟 (東京都 男性)

学んだ事により、発想法が大きく変化した事柄が多い。自分は高校教員である。教員として同僚・生徒に伝えなくてはならないことの多さに驚いている。防災に対する考え方を抜本的に改め、教育現場でどのように反映させてゆくか、自分に与えられた使命が大きい事を再認識し、覚悟を新たにしました。

●これまでの意識の持ち方を反省 (静岡県 男性)

日本各地で起こった地震や災害について、テレビや新聞などで知っていたが、地震に対する意識や防災に関する知識が全くないことを感じさせられた。そして、研修を受講して自分の住んでいる周辺施設を見る目が変わった。明日にも来るかもしれない巨大地震に対応できるよう、様々な視点から防災について考え直し、周囲の人々に知らせていきたいと感じた。

●その他の職業・学生の方々からのご感想

圧倒されました (徳島県 男性)

「防災」という二文字に少しだけですが興味があり、軽い気持ちで研修を申込みました。ところが、研修初日よりすごい講師陣、素晴らしい内容に、軽い考え方でいた私は圧倒されっぱなしでした。「防災」、この地味な文字の裏には、防災がいかにこれからの災害列島日本に必要なか、私自身の考え方を根底から覆す、充実した研修でした。

防災士の活動とは

- 1.防災士は、防災に関する基本的な知識と技能を有し、「災害への備え」を担います。
- 2.防災士は、社会全体の継続的な防災力向上をお手伝いします。
- 3.防災士は、平常時には、日頃から地域や職場の防災活動に取り組みます。
- 4.防災士は、災害時には、公的支援が到着するまでの間に被害の拡大を軽減するために活動します。

全国に防災士は
54,000名

(2012年9月末現在)



■資格取得に関する特例について

消防署で消火、救助、救急の実務を経験された消防吏員の方(退職者の方を含む)、あるいは、日本赤十字社の所定の教科を修了し、赤十字救急法救急員の資格を取得されている方々には、防災士資格の取得につきまして特例規程が適用されます。詳しくは日本防災士機構までお問い合わせください。

■受講コースの変更

- 1.会場研修初日の前日より起算して8日目以前に、1回に限り変更可能です。(変更先は、お申し出があった時点で申込受付中のコースに限ります。)
- 2.会場研修初日から起算して7日目以内、あるいは急なご都合で会場研修期間中にコースを変更される場合、防災士資格取得試験受験料 3,000円について、再度お支払いいただきます。

※変更後の受講コースに出席できない場合は受講登録の取り消しとなり、取消料がかかります。
(受付日より金額が変わります。取消料額は右記表示の通りです。)

■受講登録の取り消し

受講登録の完了後、受講者ご自身の都合で受講を取り消される場合は、右記の金額を取消料として申し受けます。

■在籍期間について

会場研修未修了、防災士資格取得試験未受験、防災士認証未登録の受講者様は、当該年度の翌年度末(毎年3月31日まで)が在籍期間となり、その間に限り、適宜コース案内・試験案内・登録のお願い等を当センターより送付いたします。それ以降は在籍期間失効となりますので、受講・受験・登録につきましては早目にご連絡ください。(在籍期間失効後は登録料等の返金には応じかねますのでご了承ください。)

学生の方には学割適用！一般受講料 ~~53,000円~~
防災士研修受講料に50%学割。 **26,500円**

※別途受験料・登録料が必要になります。

取消受付日	取消料
21日目以前に取消通知をされた場合	5,000円
20日目～8日目の間に取消通知をされた場合	10,000円
7日目～前日に取消通知をされた場合	20,000円
会場研修当日以降に取消通知をされた場合および取消通知をされなかった場合	56,000円

取消受付日は受講登録された研修コースの会場研修初日の前日から起算します。
※お振込みいただいた金額から上記取消料と振込手数料を差し引いて返金いたします。

家族・職場・地域を守るために

防災士

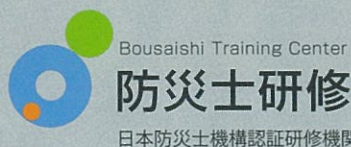
減災と社会の防災力向上のために必要な

意識・知識・技能を習得した「防災士」を誕生させます。



- ◎2日間の講習で取得できます。
- ◎資格は更新がなく生涯継続します。

防災士になるための「防災士研修講座」のご案内



Bousaishi Training Center

防災士研修センター

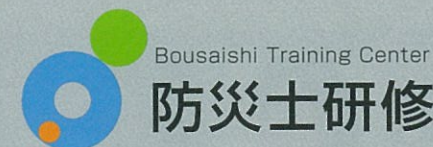
日本防災士機構認証研修機関

〈お問い合わせ・資料請求〉

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-1-8神野ビル6階

電話(03)3639-5051 FAX(03)3639-5053

<http://www.bousaishi.net/>



Bousaishi Training Center

防災士研修センター